

第1回 地域力創造拠点施設整備基本計画検討懇話会 議事概要

【開催概要】

日時：令和8年6月1日（月）14:00～16:00

場所：金沢市役所第二本庁舎 3階2301会議室

【意見交換発言要旨】

（1）座長選任

事務局から、金沢大学准教授の丸谷委員の座長就任を提案し、全会一致で承認

（2）意見交換発言要旨

<仁志出委員>

「学生が長期滞在できるスペース」とは具体的にどのような機能を想定しているのか教えてほしい。

<事務局>

昨年度の基本構想検討懇話会でも議論にあがっていた、学生寮のような機能を想定している。この施設に住みながら、まちなかの歴史や文化、繁華街の魅力などを感じていただき、金沢に愛着を持っていただくことも重要だと考えている。

<丸谷座長>

学生をいかにまちなかへ呼び込むかという点については、郊外にいる学生に来てもらうことも重要だが、あわせて当該エリアに滞在してもらうという視点も重要であるという議論が昨年度の基本構想検討懇話会でもなされていた。

本日は、アイデアを広く発散していく段階であると考えている。まずは、機能と規模について、どのような要素があればよいのかという点から議論していきたい。

<濱委員>

学生団体や研究室での活動の際にまちなかの施設を利用することがある。学生団体の場合は20人程度が収容できる比較的小規模なスペースを利用することが多い。具体的には、金沢学生のまち市民交流館や金沢勤労者プラザなどを利用しているが、予約が取りづらい場合も多く、会場の確保に苦慮することがある。

研究室単位では30人～50人程度で利用することが多く、市民公開講座を実施する際は100人程度の市民の方に参加いただくこともあるが、大学行事等と重なると学内の講義室を確保できない場合がある。まちなかに施設があることで、市民の方にとっても来訪しやすく、より多くの方に参加していただくことが可能になると考える。

<杉田委員>

学生団体として利用する場合も、3人程度の少人数から50人程度まで、利用人数の幅が大きいこ

とから、人数に応じて柔軟に活用できるスペースがあることが望ましい。

また、屋外でのフィールドワークを実施する際に、荷物を置いて外出できる環境が確保されていると良い。

<山本委員>

学会やシンポジウムの場合は200人程度の規模になることもある。可動式の間仕切りなどを活用し、利用目的や人数に応じて柔軟に空間を調整できるようにすることで、大学や学生が利用しやすい環境になると考える。

<丸谷座長>

大学等の学会や公開講座といった利用に限らず、市民と学生が意見交換を行う場や、市民が講師となり、学生に教えるような場としての利用も想定される。

<鶴見委員>

地域交流の観点からは、新堅会館にある公民館や社会福祉協議会の機能を、新たに整備される施設に入れていただきたいと思っている。その際には、現在実施している定期的な教室や地域活動が継続して実施できるよう、共有スペースだけでなく、一定程度の占有スペースも確保されることが望ましい。地域住民にとっても使いやすく、親しみを持って気軽に利用できる空間であってほしいと考えている。

また、中高生と大学生が関わり合うことができる仕掛けを検討してはどうか。大学生だけでなく中高生も一緒に施設を使うことで、より若い世代へと施設利用が広がっていくような、いわば“種まき”のような仕組みがあるとよいのではないか。このことは活動内容や運営に関する話かと思うが、そのような視点も大切だと考える。

一方で、防災の視点も重要だと考えている。地域には高齢者が多いこと、また、グローバル化の中で、日本の文化を若い世代へ伝えていくことも大切であることから、高齢者の避難スペースとしても活用でき、かつ文化継承の場にもなるような和室空間を設けてはどうか。

<丸谷座長>

共有スペースについては、学生や地域住民が同じ空間を共有して利用できるよう検討する必要がある。

地域の大規模な行事については、ある程度の大きさの空間が必要になると思うが、既存の体育館では現在どのような活動が展開されているのか。

<鶴見委員>

現在、地域のスポーツフェスティバルや夏祭りを体育館下のピロティで実施している。暑い時期に開催しているため、屋内で空調が整備されている空間だとより実施しやすくなると考えている。秋には防災に関する催しと文化祭を組み合わせたイベントを体育館で実施している。

<丸谷座長>

公民館の占有スペースとして具体的にどのような空間を想定しているか。

<鶴見委員>

占有スペースとしては、事務所、会議室、倉庫が必要だと考えている。会議室については、新たに整備される施設において、公民館や社会福祉協議会が優先的に利用できる仕組みとなるか否かで必要な占有スペースが変わってくる。

<丸谷座長>

基本構想で示されているつながりのイメージのように、学生が地域や周辺から来るこども達と交流する場をつくることも重要だと考える。こどもに関係する活動において、どのようなスペースが必要となるかお聞きしたい。

<仁志出委員>

小さなお子さんを連れて来訪しやすい環境を整える必要がある。こども用のトイレや床に座って過ごせる場所、屋外で自由に遊べるスペースなどがあると良いのでは。

また、こどもを含め、高校生から大人まで多様な世代と一緒に活動できるフリースペースが重要だと考える。学生や地域住民、市民活動団体などが同じ空間で活動し、必要に応じてつながりを持てるとよい。

コーディネーターについては、事務室にだけでなく、フリースペースに出て利用者と関わることが重要だと考える。

<濱委員>

多様な世代のつながりを生むための空間づくりの工夫が必要ではないか。例えば、空間の間仕切りをガラスにして活動の様子が部屋の外からも見えるようにすることで、お互いの活動について知ることができ、交流が生まれやすくなると思う。

<西本委員>

まちなかでフィールドワークを行う際には、事前レクチャーや終了後の成果発表など、一連の活動をまとめて行うことができるスペースが求められる。講義や実習の場としてはもちろん、食を介した懇親に使えるシェアキッチンや、成果を展示できるギャラリースペースなども備わっていると、活動の幅がさらに広がるだろう。

<片桐委員>

各大学で行われている地域学習やフィールドワークの情報が共有される機会が少なく感じている。そのような取組の成果を蓄積し、共有できる空間を設けることで、交流が生まれるきっかけになるのではないか。

<甚田委員>

この場所はこれまで地域が守ってきた経緯があり、地域としての思いがある場所である。現在は新堅会館において地域交流などの活動が行われているが、新たに整備される施設においても、学生だけでなく地域住民の活動の場が確保されるようにしてほしい。また、防災の観点から、避難所と

しての利用やその際の運営についても考えていく必要がある。

軽い運動やレクリエーションができる場所が確保された上で、学生や子どもも使える空間があればよいと考えている。

<丸谷座長>

地域の方から、「学生と一緒に何か取り組みたいが、どこに相談すればよいか分からない」といった声を聞くことや、地域課題について相談を受けることがある。地域のニーズや課題を大学等とマッチングするような仕組みが必要であり、そのためには地域住民が日常的に施設を利用することと、コーディネーターの役割が重要だと考える。

運営については、どの部分を民間に任せるのかといった役割分担についても整理していく必要があるのではないか。

<事務局>

民間活力の活用についてはさまざまな方法があることから、今後、民間事業者へのヒアリングを行いながら検討を進めていく。本施設は複数の機能を持つことから、どの部分を民間に委ねるのかといった役割分担についても整理していく必要があると考えている。

<仁志出委員>

金沢市の特色として、金沢美術工芸大学の存在がある。美術系の学生が利用したいと思える施設にするためには、どのような要素が必要か伺いたい。

<西本委員>

学生は、学内にとどまらず、外に出てデザインやアートを発表したり、依頼を受けて制作に関わりたいという意欲を持っている人が多いと感じている。外部とのつながりが持てる場や作品発表、ワークショップができるような場所があるとよいのではないかな。

また、交換留学生について、3か月から半年程度の滞在が多く、その期間の住まいの確保が難しいことから、そのような学生が中長期で滞在できるようなスペースがあるとよいと考えている。

<仁志出委員>

運営のあり方も重要であると感じている。地域住民や学生、コーディネーターがどのように関わるのか、各々の意見をどのように運営に反映させていくかが重要だと考える。多様な主体が関わりながら意見を共有できる場があるとよいのではないかな。

<甚田委員>

地域としては、利用の優先順位をどのように整理するかが重要であり、年間の中で一定の地域利用枠が確保されるとよいと考えている。

地域との連携の提案があれば、呼びかけやつなぎなどの協力ができる。商店街との連携なども含め、学生と地域が関わる機会があるのではないかと感じている。

<片桐委員>

施設の利用やルールについて、継続的に検討する場が必要であると感じている。運営事業者や地域住民等が集まり、話し合いながら進めていくことが必要ではないか。

<丸谷座長>

顔が見える関係を築くことは重要である。コーディネーターだけでなく、地域住民や学生など多様な主体が関わる中で、関係が形成されていくと考えている。

<鶴見委員>

コーディネーターの役割は重要であると感じている。また、地域住民や施設利用者が互いの活動を共有できる場があるとよい。それにより、互いの活動への理解が深まり、施設を利用しやすくなるのではないか。

<山本委員>

運営の参考事例として、大学コンソーシアム石川はのりと里山空港内に分室を設けて活動している。基本的には先着順での利用としつつ、大規模な講座やイベントについては半年から1年程度前に計画されることから、あらかじめ会場を確保しておくような運用が行われている。

施設における活動については、学生だけでなく、地域企業による研修等での利用も考えられるのではないか。

また、にぎわいづくりとして、カフェのような機能があるとよいと思う。例えば曜日ごとに運営主体を変え、そこに学生や地域事業者が関わる方法も想定されるのではないか。

<丸谷座長>

災害時の避難所について、水害の場合は2階への避難が基本になると考えている。

どの程度の人数に対応する必要があるのかという点も含めて検討が必要になると思うが、現在の体育館程度の規模が必要かどうかについては、検討の余地があると感じている。

<甚田委員>

地域には高齢者が多いこともあり、避難のあり方については配慮が必要になると感じている。体育館のような広い空間に長期間滞在するのは難しい面もあり、避難者の属性などに応じて分けができる空間が必要になるのではないかと感じている。

能登半島地震の際には公民館の和室やホールを活用して避難者対応を行った。県立工業高校や遊学館高校、金沢歌劇座など近隣の指定避難所とも分担しながら対応していくことになると考えている。

<仁志出委員>

倉庫については防災の観点だけでなく、日常利用の中でも必要になる。また、市民活動団体などの利用を考えると、ロッカーのような機能も必要になる。

<鶴見委員>

防災の観点から、避難所となった際に活用できる台所やキッチンなどの調理スペースが必要にな

るのではないか。

<丸谷座長>

調理スペースは日常利用だけでなく、避難時にも活用できるような視点は重要だと考える。
学生の視点も伺いたい、どのような場所であれば利用したいと感じるか。

<杉田委員>

個人利用の場合は、Wi-Fiや電源が使えることや、気軽に立ち寄って利用できるトイレがあることなど、利便性が求められていると感じる。学生を呼び込むには、既存の学生団体に対して施設を広報することが有効ではないか。会議や打合せの際に無料で利用できる施設は限られていると感じており、そのような用途で利用できる場所があるとありがたい。

<濱委員>

まちなかに出る機会が外食やアルバイトの合間などの時間になることが多い。そうした隙間時間に大学の課題や作業を行うことが多いため、カフェと図書館の中間のような、作業ができるスペースがあるとよい。そのような場所があれば、大学生だけでなく、高校生や社会人にとっても利用しやすい空間になるのではないか。

また、学生の地域への関わりという点では、単に利用するだけでなく、自分たちの活動の痕跡が残るような仕組みがあるとよいと感じている。作品や活動の成果が残ることで、大学卒業後も再び施設を訪れるきっかけになるのではないか。

<丸谷座長>

学生がまちなかで過ごすという点では、以前は人づてにお店を知ることや、ふらっと立ち寄れる場所があったように思うが、現在の学生はそうした機会が少なくなっているように思う。そのような場をこの施設でつくることができるとよいと感じている。

今回は、本日の議論を踏まえ、必要な機能やスペースについて整理し、具体的にどのような空間・施設となるのかを検討していきたい。

以上